

みんなで作ろう！



☆魅力いっぱい

☆活気があふれ

☆安心し・心豊かに暮らせる



げんきな街を！

NO.19
おみがわ中央地区まちづくり協議会

P1

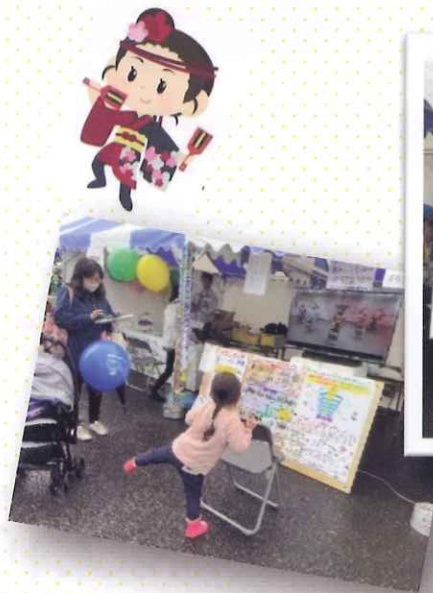


ボランティアメンバーによって修復された城山天満宮
〈工期:5ヵ月間、毎水曜日、7名により作業されました。お疲れ様でした。感謝！/〉

地域活性化 部会イベント

□おみがわ yosakoi 祭りブースにて協議会活動を紹介

昨年11月に行われたおみがわYOSAKOI祭りの会場において、まちづくり協議会の活動を紹介しました。当日は、ひと桁台の気温、小雨交じりの寒い中でしたが、市長、市議会議員はじめ多くの市民の皆さんが訪れて下さいました。中でもカレンジャーや市長がモデルとなって放映した香取もりもり体操(タオル体操もあり)には、実演を兼ねて興味深く見つめていました。これから増々もりもり体操を普及していく上で、意を強く持って活動していきたいと感じました。



□もりもり体操普及促進

駅前・JA 研修所をお借りしてサロンを運営していますが、もりもり体操の参加者も徐々に増え今では登録人数30名を超える皆さんが、毎月の第一／三金曜日に研鑽しています。童謡を口ずさみながら体を動かすと、昔日の自分を思い出しながら運動できるので、関節稼働域が広がったような感じがします。当初は、体操した後日に、足の筋肉が痛くなりましたが今では歩くのが軽くなっているようです。

以前より実施していた入会地や小見川団地の皆さんの中にも身体が楽になったーと聞き及びます。昨年10月より、野田地区でもスタートし、つくし会や、高齢者クラブを中心に進めています。

野田区の皆さん、青年館で毎月第一／第三・水曜日の9時半から行っていますので、是非とも参加してみたいはいかがでしょうか？

野田区の実施例

- ・場所 野田青年館
- ・時間 毎月第1／第3水曜日
9時半～
- ・登録者数 35名
- ・重しを使うとより効果あります



□スポーツ吹矢大会開催石井典雄(協議会事務局長)

まちづくり協議会では、地域住民のふれあい交流を広め、地域一体化、活性化促進を狙って、各種のスポーツ大会を企画運営しています。昨年協議会としては二回目の『スポーツ吹矢大会』を開催しました。

スポーツ吹矢は、腹式呼吸をしながら矢を放ち、当てた的の点数の総計を競い合う競技。腹式呼吸は、肩こりや高血圧の予防、脳の老化防止等で健康効果が期待できるとされており、的を狙って矢を吹く際、集中するので精神力も鍛えられるスポーツです。しかも、誰しもが気軽に参加出来る素晴らしいイベントです。



本大会運営に向けて初心者でも参加出来るよう、体験会を実施しました。体験会は、小学生5,6年生でも保護者同伴の条件で実施しましたら、親御さんの方が興味津々となって参加し、会を盛り上げて下さいました。計5回の体験会で述べ50名の方が参加しましたが、当初は、吹いても失敗が多かったのですが、繰り返し試技しているうちに、高得点の的に当たり大喜びしたりするなどしてだんだん上手になり本大会に臨みました。

本大会は、11月25日(土)午後13時から、小見川スポーツコミュニティーセンターで開催。参加は合計28名(小学生6名)で、運営は、日本ウエルネス吹矢協会小見川支部の皆さんの協力を頂きながら実施しましたのでスムーズに行うことが出来ました。競技方法は、別紙の通りです。大会は、技術レベルに応じてグループ(小学生/大人・競技初心者/経験者)に分けて、そのグループ内で、得点に応じて順位付け⇒優勝者、順位賞、飛び賞を決定。他に目玉賞・参加賞も設定して楽しみました。参加された皆さんには大変喜ばれ、今後も続けていきたいと意を強く感じた次第です。プレー中、集中して吹き、「スコソー！」と、歯切れの良い音を出して突き刺さるので、ある種の爽快感・達成感も感じられ、精神統一も叶いますので、健康スポーツの先駆けになりそうです。



↑各グループ優勝者



↑大会の様子

スポーツ吹矢競技方法

- ・基本動作に基づきプレーする
- ・5本の矢×4ラウンドプレー
- ・的(4重円)の中心部より7/5/3/1点、外れ0点を採点
- ・総合計の点数で競い合う

駅前広場 花いっぱい運動

駅前の佐藤尚中先生石像のまわりにプランターを置き、年中花を咲かせ明るい環境になるよう花植え運動を実施しています。昨春より、ペチュニア⇒大型ベコニア⇒ビオラの花を3~4ヶ月サイクルで植替えを行ってきました。花ガラ取り、水やり、周囲の清掃などをしながら進めています。通りすがりの見ず知らずの人から「頑張ってるネー」などと、声をかけられ気を良くし作業しています。さあ次は何を!!! ご近所の皆さんのお知恵をお借りしながら進めていきますのでご協力をよろしくお願い致します。



生活・安全・防災 部会イベント

横断歩道ペイント標示のリニューアル推進

小学校通学エリア内に設置されている横断歩道に痛みが見られ始めましたので、地元区長さんのご協力を仰ぎながら、逐次リニューアルを進めています。

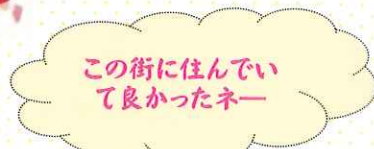
交通事故の撲滅には、先ずもって、道路上にあるいろいろな標識類を視認し易くすることが肝心カナメであることは言うまでもありません。部会内で、区域内の小学生の通学路になっている箇所をパトロールし危険箇所を探し、該当区の区長さんと一緒になって改善を図りました。今年度は、駅前通りの横断歩道3カ所と新田橋脇交差点、消防署前交差点の計5カ所のリニューアルを実施しました。今後も継続して進め児童の交通事故予防に努めてまいります。



【改善前】



【改善後】



□ 生き生き！高齢者づくり推進

駅前通りの JA 研修室をお借りして、サロン運営を行っています。

- ◆ 開催 各月第1/第3(金)10時～15時(GW,年末年始は除く)
- ◆ モリモリ体操も行っています。活発化してきましたヨ
- ◆ 第3金曜日には、大正琴の演奏会が開かれています。
- ◆ 囲碁、将棋や団らんに使って下さい。飲食も可
- ◆ ソフトドリンク(茶、コーヒー)もご自由に、入場無料です

□ 防災活動サポート 地域防災自主防災づくりの推進

まちづくり協議会では、地域の防災パワーをアップするため、訓練や勉強会等を支援する活動を展開しています。災害は、先ずもって発災しないよう心がけ、発災しても最小被害に食い止めることが肝要です。しかしひとたび防げない災害が発生した際や、被災のあと生活を送る上ではご近所さんで協力し助け合う＝近助の力を欠かすことが出来ません。所によっては早期に公設消防隊が到着するのが困難な場合があり、そういうときにも近助の協力し合い…チームワークが不可欠です。そんな意味では、地域の皆さんが一体となり災害に対する情報を共有化することは素晴らしいことです。この度、入会地地区と、新田／田町の2区合同による防災勉強会が開催されましたのでお知らせ致します。

◆ 入会地区防災勉強会実施状況



※写真は過去に実施した際撮影したもの

昨年、令和5年10月15日(日)8時から自治防災隊の訓練を計画したが、当日雨天の為、区民センター室内で各隊員の非常時の行動、役割分担を書面で確認し合いました。終了後、非常食の試食会を開催しました。訓練は13名、試食会には40名の方々が参加しました



◆ 新田・田町2区合同防災勉強会(出前講座)

昨今の災害は、地域をまたいで発生するケースが多くなっています。両地区合同で行われた災害に対する勉強会は、大きな意味を持っています。今後も引き続いて実施をお願い致します。



□ 小学生の防犯、交通安全意識の啓発促進 ……………須藤孝三(生活安全防災部会長)

秋の交通事故撲滅週間に因んで、中央小5、6年生による標語コンクールを実施しました。厳選審査の結果、次の句が優秀作品として選ばれました。



最優秀賞

なれた道 いつもの道こそ 要注意

(敬称略)

石丸禮治(5年生)

優秀賞

手を上げて 信号よく見て わたろうね
 大丈夫 君のマナーで 消える事故
 気をつけて 小さな油断が 事故招く
 青信号 きちんと見ようよ もう一度
 へらそうよ 交通事故が ゼロの町

人見陸翔(6年生)
 平山宗樹(6年生)
 佐藤希優(6年生)
 木内陽依(6年生)
 戸村さき(5年生)

佳作

合言葉 みんなで決めて 詐欺防ぐ
 青信号 点滅したら わたらない
 登下校 いつもの道でも よく確認

高橋彩芭(5年生)
 菅澤桃理(5年生)
 宮崎琴音(5年生)



最優秀作品は、のぼり旗10本を作成して、区域内各所に掲示する予定です。

応募総数は、5年生80名、6年生77名、計157名でした。たくさんの皆様より応募いただきましてありがとうございました。ご協力に感謝申し上げます。

安全部会からのお願い

ボランティア募集中



★小学児童の登下校見守り隊員(送迎車両の誘導含む)募集しています
(7:00~15:00~ 30分間)

子供たちの笑顔と可愛い挨拶に出会えます！安全確保にご協力を！
ご質問、ご賛同頂ける方は須藤まで(☎09088927403)お知らせ下さい



教育・文化・歴史 部会イベント

域内文化遺産の伝承

◆中央地区に3番目の山城が登録される…栗田元一(教育文化歴史部会長)

永禄年間(1560年頃)に、南総のかなたより風雲急を告げる風が、小見川城をめざし吹き寄せてきた。1199年に栗飯原朝秀により築城された「小見川城」の攻略に向けて、南総の里見家の将・正木大膳(時忠)を大将に、「椿の海」を経て森山城を攻め落とし、更には大根塚砦を攻略。その後、里見軍は、現在の中央小「小見川陣屋」に着陣し、ここに橋向城を構え、黒部川を挟んで小見川城と対峙した。当時の小見川は、海から湾入した形の内海(香取の海)に面し、近隣地域と水運で結ばれて産物を行き交う重要な一大集積地として栄えていた。里見氏は、その權益を奪取しようと目ろみ、戦いを挑んできたのである。これに対し栗飯原軍は、成毛宗親に今の下小川地区に前線基地として「下小川城=川向城ともいう」を構えさせ敵と戦はんとするも、宗親は武運つたなく戦死、その後両軍の一進一退が続き、ついには宗親の子・宗正が再起して正木氏を放逐し、親の仇を果たす。宗正は、その弔いとして寺(血当寺)を建立しお墓を残した。これが下小川城誕生の所以である。



下小川城

別名川向城とも呼ばれ、永禄年間に房州里見氏の将、正木大膳の侵攻を受けた小見川城主千葉一族の栗飯原家の重臣であった成毛宗親がこの地に砦を築き、正木氏の小見川城攻撃の基地である橋向城に対しての里見勢への攻撃の拠点とした。

成毛宗親の戦死後、その子宗正が父親の菩提を弔うため永禄10年(1567年)血当寺を創建したといわれている。

血当寺は天台宗の寺で、ご本尊は薬師如来であり、同敷地には妙剣様が祭られていることから成毛氏も千葉一族の出とされている。

令和5年3月吉日
小見川中央地区まちづくり委員会
香取市下小川区

平成 28 年よりスタートした千葉県物産協会による『千葉県山城 100 選』に、昨年 3 月、当地としての第三番目の山城・下小川城が選ばれ登録されました。まちづくり協議会としては、難攻不落として有名であった「小見川城」、陣屋として使われていた「小見川陣屋」と共に「下小川城」を観光資源として PR するため、案内看板の設置、御城印カードなどを作成しています。これからも引き続いて地域おこしの一環として広く各方面に向けて情報発信に努めてまいります。皆さんも一度お足を運んで下さい。古の趣が覗えるものと思います。



□ 郊外ツアー研修会開催

◆弘経寺（千姫菩提寺）／関宿城ツアー研修（参加者：41 名）……………宮部義夫
(教育文化歴史部会)

コロナ問題が下火になってきた去る10月28日に、僅か7才にして豊臣秀頼に嫁ぎ、波乱万丈の人生を歩んだ天樹院千姫の遺骨が眠る弘経寺(ぐぎょうじ・浄土宗・常総市)を訪問した。弘経寺では、住職の懇切丁寧な説明から、徳川三代将軍に厚遇された10世了学上人が千姫の深い帰依を受けて再建された寺と理解出来た。本堂裏堂の奥には徳川幕府初代将軍の家康公を始め、14代家茂公までの歴代将軍とご一族の位牌が安置される由緒あるお寺でもあった。



大阪城陥落後、徳川家の重鎮であった本多忠刻に嫁ぎ、落飾したあとは、江戸城内竹橋御殿の弘経寺への移築と共に遺骨が安置されたと聞く。伝統があり、荘厳な雰囲気の中を歩いていると、遠い昔の絵巻がよみがえってくるような錯覚を感じながら探索した。そのような意味では歴史ある名所旧跡は、精神がリフレッシュされる最適どころだと思う。

続いて訪ねた場所は、関宿城博物館。いにしへの水路交通の要地であり、関東の水運を抑える重要な拠点であったそうで、大きな川に接して発展した城下町。城、水運と、どうも小見川と重なり合う部分が多く、展示物を見ていると、生活形態までもが類似したものが多いものだとつくづく感じた。一步外に出てみると新たな知見が得られるこの郊外研修会は、普通のツアーとは異なる特別な楽しみや充実感が得られます。まだ未参加の方は、次回にぜひご一緒致しましょう。



□ 人の集まる観光資源・城山公園の魅力発信

◆城山公園探索・紅葉ツアーに参加して……………高橋秀治(おみがわ観光協会々長)

城山公園には長い歴史があり、これまで前方後円墳などの古墳が 28 個発見されています。特に1号墳からは三角縁神獣鏡、鉄刀なども出土し、横穴式石室が城山公園に移築、復元されています。又、鎌倉時代・栗飯原氏により小見川城が築城され、現在でも忠霊塔の西方・城跡広場奥に土塁・空壕などの遺構がみられます。



この伝統ある自然風靡な城山公園内を、去る 12 月 3 日、水越正彦先生に案内されて紅葉ツアー(参加者 26 名)を楽しみました。当日は快晴に恵まれ、先生の長年に渡る観察結果と、それに裏打ちされた体型的な、情熱的な説明があり、更には参加者の知識欲を刺激した絶妙な語り口により、改めて城山公園の素晴らしさを感じる事が出来ました。特にモミジの葉について、葉の表面側から見るとどんよりした茶褐色の葉であっても、逆光法(葉に太陽光線を通すように透かしてみる方法)で見ると、一段と鮮やかな色合いを醸し出すことに大いに感銘を受けました。

実際の写真を添付(次頁)しましたのでご覧下さい。

←ツアー参加の皆さん

逆光法でみるモミジの変容

□同じ木であっても……

表面から見たモミジ



逆光法で見た紅葉の鮮やかさ

多くの先人達を守り育ててきた城山公園を盛り上げようと、昭和 28 年からスタートしている桜祭りですが、今では県内でも指折りの名所として、シーズンには近隣から多くの皆さんが集まり、楽しんでいます。そしてツツジや、アジサイの花が競うように咲き続き、遊具で遊ぶ親子づれやウォーキングで集まる健脚者達を楽しませてくれています。

山野に錦が広がったあとに落葉が始まると、気高くそびえ立つユリの木の新梢に絶妙なハートマークが現れます。ハートは僅か直径 50cm 範囲のポイントからしか見えないので、それを探し見つけようとするカップルが行き



交います。ヒョットするとこれからは恋人達の聖地として崇められるようになるかも知れません

ツアー途中、清風荘の隣にある天満宮の館を、ボランティアの方々が修復(表紙に掲載した写真は、修復された後のもの)されていて感謝の気持ちで一杯になりました。豊かな街づくりには公園の環境整備を欠かすことは出来ません。皆さんで守り育て、そして自然豊かなこの地域の魅力を発信し続けて、結果として人口減やまちづくりの活力アップに繋がることを強く念じました。

トピックス

□ 生き生き！高齢者づくり、各地区活動事例ウォッチング



◆野田「つくし会」活動紹介 笠井憲義(つくし会々長)

野田区の高齢者生き生きづくりアクションは、平成20年に、香取市の要請により『認知症高齢者とその家族を、地域で支えるモデル事業』を受託したことから始まりました。具体的には認知症支援会議を組織し、平成23年までの2年間、各種団体の協力を得ながらケース・スタディーに取り組みました。その経験でいくつかの成果や課題を把握することを出来ましたが、住民より認知症対策の継続を望む声が多数寄せられたため、平成24年から幅広く地域の福祉課題にも取り組む組織に変容して、再スタートすることになりました。新たな会は、区の助成があり、名称を『野田つくし会』に変え、広く一般区民も対象に『健康で生きがいがあり、安心感のある地域を』目指して施策を実施してきました。

活動の主な項目は、高齢者の健康寿命をいかに長くできるか、地域住民のコミュニケーションを高め、肉体的弱者である高齢者を敬い支えあう仕組みづくり等、に主眼をおき勉強会やお楽しみ会などを行い活動を展開しています。

会の運営は、民生委員や高齢者クラブ & 区役員の経験者並びに、介護や福祉活動に強い関心を持ちボランティアとして協力頂ける方、それと近隣の介護施設のご協力を頂いて進めています。毎年11月に勉強会を、そして翌年2月にお楽しみ会を開催して「高齢者の生き生き作り！」に勤しんでおり、これまで開催した主な事業は、以通りです。



【勉強会】狙い：病気予防、健康維持、生きがいのある生活づくり 実施テーマ：

『健康寿命に生きるために』講演会・講師：香取おみがわ医療 C 三上元病院長

『口腔ケアと病気の関係』講演会・・・講師：小林歯学博士(県歯科医師会)

『物忘れと認知症・理解と予防について』講師：旭中央病院・持田脳神経外科部長 etc

【お楽しみ会】狙い：一般区民も含め、皆が楽しめ、参加者が交流しあって健康作りを目指す
 実施項目：紙芝居／落語会や寸劇（ネズミのお嫁入り）／記録写真鑑賞会（よみがえる昭和の小見川）／芸能祭（野田区民によるカラオケ・琴演奏・日本舞踊） etc



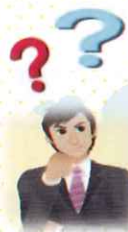
参加者は多い時には80名近くにもなりますので、コロナ禍の際は中断していました。が、感染症管理レベル変更に基づき今後は前向きに取り組んでまいります。他の地区の皆さんの参考になればと掲載させて頂きました。ご覧頂き、改善についてのご意見やご質問などございましたらお待ち申し上げます。よろしくお願い致します。

■ライドシェア展開がすぐそこに！

◆今こそ本気で考えよう交通まちづくり 石毛正俊（協議会監事）

昨年後半より、にわかにテレビや新聞紙上でライドシェア関連の報道がなされるようになりました。4月1日施行の「働き方改革関連法を踏まえた改善基準告示の改正」により、物流及び人の移送サービスに関係する様々な分野において、労働時間短縮の規制により極端な人手不足が生じ、図り知れない社会経済の生産性の低迷を招く。そうしたネガティブな将来予測の打開策の一つが、地域交通網を維持・整備しようとするライドシェアである。

第二種免許のプロドライバーの人員不足を第一種免許の一般ドライバーで補填できる法整備を急ぎ、地域の実情に沿った地域公共交通システムを構築、高齢者をはじめとする移動困難者の足として機能させると言うものだ。一方、既存タクシー業界は、永年培った営業基盤を揺るがし兼ねない一大事と認識、当初大反対のスタンスをとるも、ここに来て一転して背に腹は代えられずの方向転換となった。そうしてようやく新次元での「地域公共交通とまちづくり」の機運が盛り上がり、一気にパラダイムシフトへ突き進むチャンスが到来したと言えよう。「誰もが自由にストレス無く移動できる持続可能な地域交通網」。この理想の実現に一步でも近づくためのまちづくりが急務と言える。世代を超えた地域住民の地道な努力、官民一体の英知の結集。歴史的転換期はスタートしたばかりである



ライドシェアってなーんだ？
 ライド⇒乗る シェア⇒わかる・共有
 ウム！ウム！

編集後記 過日、「かとり市民環境ネットワーク」なる懇談会に出席した。メンバーは、市長はじめ役所の歴々やボランティア会リーダー。議論のポイントは、**ポイ捨て！** ポイ捨てゴミは、人の目が届かない所を**好むようだ**…自販、CVS、いつでもどこでも物が買え、便利になった反面、食したあとの包材が邪魔モノ（ゴミ化）になっている。合理化 or 美観上？なのか、以前、街のアチコチ（駅構内、歩道上、ストア前）にあった**護美箱**は今や見かけない。路端や雑木林など、人目がない所があたかも護美箱のように使われている……話し合いで議論百出するが、同じベクトルを向いているのか甚だ疑問に感じた。公衆道徳心を煽るのは不可欠だが、それだけでとても解決できるとは思えない。もっと前向きな項目（販売者責任問題とその対策、現認者ポイント制の有効性 etc）を議論できる場を標榜したい（S.S）

発行 小見川中央地区
 まちづくり協議会
 発行日 令和6年3月20日
 責任者 根本武彦
 連絡先 ☎08025659226
 編集委員 中野 清 石井典雄
 西岡敏明 鈴木 進